資料１

「地域移行支援」の支援状況

番号	1	2	3	4	5	6
年齢（令和８年９月現在）	53歳	64歳	45歳	60歳	49歳	56歳
性別	男	男	女	男	女	男
病名	統合失調症	統合失調症	統合失調症	アルコール依存症	統合失調症、軽度発達遅滞	統合失調症
地域移行前の状況	井之頭病院	斎藤病院	長谷川病院	井之頭病院	武蔵野中央病院	小金井病院
手帳	なし	2級	申請中	申請中	1級	なし（都に返却済み）
年金	あり	あり	２級	なし	なし	なし（支給停止中）
入院日	令和4年3月	令和7年10月	令和6年10月4日	令和7年3月17日	令和8年1月24日	令和8年6月30日
地域移行支援支給開始	令和7年7月1日	令和8年7月1日	未定	令和8年6月1日	未定	未定
地域移行支援事業所	支援センターそら	支援センターそら	らく福祉会相談支援事業所	支援センターそら	支援センターそら	支援センターそら
前回協議会時	グループホーム見学（継続報告）	新規申請予定（継続報告）	導入保留（継続報告）	新規申請予定（新規報告）	―	―
令和８年９月１５日現在 （第２回協議会）	令和８年７月２９日付けで市内のGHに入居され、地域移行支援は終了。	令和８年７月１日より新規で地域移行支援を開始。グループホームの見学を始めている。	地域移行支援でGH入居を目指していたが、急遽自宅に退院となったが自宅退院後、間もなく再入院となった。改めて地域移行支援を利用してGH入居を目指す方針であったが、月に２回の地域移行支援面談や、半年間という支給決定期間が本人へのプレッシャーになることから、移行支援の申請に踏み切れずにいる。計画相談担当者との面談は継続し退院の動機付けをしている。自宅外泊時にゴミ捨てなどの体験をしている。	独立アパート型およびシェアハウス型のGHを複数見学し、生活の場のイメージ作りをしている。	高齢の両親と実家暮らしをしていたが、体重コントロールを目的に令和8年1月に入院。目標体重まで減量できたため、両親及び本人は自宅退院を希望したが、親亡き後を心配した主治医より、GHへの退院の提案があり、病院より地域移行支援の依頼があった。地域移行担当者と本人の面談は実施済み。その後、父親が身体疾患で入院したことをきっかけに父が自宅への受け入れに不安感を抱くようになったため、GHに退院する方針を再確認し、地域移行支援の利用開始するタイミングをはかっている。	医療中断により近隣トラブルを抱えていた本人が経緯不明だが出奔した他県で措置入院。２か月で退院となり、自宅へ戻ってきたがすぐに医療中断となり再び不穏状態となり警察官介入にて医療保護入院になった。現在は任意入院。母名義の住宅は売却する方向となり、退院先はGHとする方針になった。「支援を受ける」ことや「障害者」であることに関する否定的な思考があるが、率直な助言をしてくれる関係性であれば伴走してほしい、と地域移行支援の導入を了解している。